

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画（案）

3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査計画

3.1 目的

3.1.1 クリーンアップ調査

(1) 共通調査

本調査は、各モデル地域の定点にコドラート（調査枠）を設置し、枠内の漂着ゴミの回収・分類を定期的に行うことで、漂着ゴミの種類、量、分布状況の経時的変化の解析（解析は、フォローアップ調査で行う）に資するデータを得ることを目的とする。

(2) 各モデル地域における独自調査

本調査は、各モデル地域に設定した調査範囲の清掃（クリーンアップ）を定期的に行うことで、清掃に必要となる人員、重機、前処理機械等について、各地域の実情に即した効果的かつ経済的な選定、手配、利用が可能となることを目的とする。

3.1.2 フォローアップ調査

フォローアップ調査では、共通調査（クリーンアップ調査）で得られたデータの解析を実施する。ゴミの量、分布状況の経時的変化をゴミの種類ごとに解析することで、効果的、効率的な清掃時期、清掃頻度、清掃方法の検討に資することを目的とする。また、発生源情報（文字、記号、バーコード等）、時刻情報（賞味期限、製造日、劣化具合、付着物等）を合わせて解析することで、漂着物の発生場所及び漂流時間を推定することを目的とする。

3.2 クリーンアップ調査とフォローアップ調査の関係

フォローアップ調査では、下図に示すようにクリーンアップ調査の「共通調査」で取得したデータ及びサンプルを使用して、ゴミの種類別空間分布等の解析を行う。

調査名	調査内容	
クリーンアップ調査	共通調査 •ゴミの種類別個数、重量データの取得 •発生源、漂流時間推定に利用可能なサンプルの取得	独自調査 地域の特性に応じた効率的・効果的な回収・運搬処理方法の検討
フォローアップ調査	データ解析 クリーンアップ調査で取得したデータ・サンプルを用いた解析 •ゴミの量の種類別空間分布の解析 •ゴミの分布状況の時間変動の解析 •発生源の推定 •漂流時間の推定	

図 1 クリーンアップ調査とフォローアップ調査の関係

3.3 共通調査の内容

(1) 調査区域の設定

共通調査は、汀線沿いに下記の条件を満たす 5 kmの調査区域を設定する。調査区域が 5 kmに満たない場合でも同様の考え方で、かつ出来る限り長く調査区域を設定する。

浜の傾斜や状態（砂場、岩場等）が比較的均一な海岸線

連続した海岸線（ただし一体と考えられる海岸線であれば断続しても可能）

大きな河川の河口部は、河口の両サイドを除外

前面にテトラポッド等が設置されている区域は除外

傾斜地など調査が困難な場所、安全性が確保できない場所は除外

(2) 共通調査の対象範囲

決定した調査区域を均等に原則として 5 分割し、その 5 分割した調査区域に、以下の～を考慮して調査枠を設置する地点を設定する（図 2、図 3参照）。

大潮満潮時の汀線を基準に 10m 四方の調査枠を設置

汀線から内陸方向に向かって最大 5 個設置（ただし奥行きのない場所は置ける個数だけ設置）

内陸方向へは堤防等の構造物の根元、傾斜地の根元、防砂林等の植生がある場合は植生内 5m まで設置

原則としてゴミの量が平均的な場所を選定

調査区域内を代表する地点であれば、等間隔でなくてもよい



図 2 調査枠の設置（石垣島：吉原海岸～米原海岸）



図 3 調査枠の設置（西表島：住吉～星砂の浜～上原海岸）



調査地点 1



調査地点 1 ~ 2



調査地点 2



調査地点 2 ~ 3 の間にある岩場



調査地点 3



調査地点 3 の砂浜奥の岩場及び植生

図 4 石垣島 (吉原海岸 ~ 米原海岸) の様子